

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500071		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームポラーノ	ユニット名	
所在地	宮城県気仙沼市田中前4丁目6番地5		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「穏やかな時間を共に過ごし、その人らしく、ありのままを受け入れます」をホーム理念に掲げ、職員全員が利用者様一人ひとりの気持ちに寄り添い、信頼関係を築いて、お互いを尊重できる関係性の維持に努めています。自宅で過ごしていた頃と同じような生活環境の提供を心がけ、利用者様がやりたい事、達成感を得られる活動を考え、取り組んでいます。ホームの近くに川が流れており、桜並木があって散歩するには最適の立地条件であり、また、散歩を通して近隣の方々との関係を築くことができている。コロナ禍により制限はありますが、家族様や馴染みの方々との関係が途切れないよう、できる限りの支援を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 9 月 7 日		

ホームの近隣には、中学校や病院、商店があり、過ごしやすい環境にある。神山川堤防の桜並木が散歩コースになっている。目標達成計画にある「地震想定避難訓練」は、コロナ等の影響で予定に変更があったが9月に実施する事が決定している。入居者一人ひとりの意思を尊重した過ごし方の支援で、理念に掲げられた「ありのままを受け入れます」を実現している。職員と入居者の関わりが多く、変化に気づきやすい環境になっている。笑顔が増え、家族のように頼られた時に信頼関係が実感できて、職員の喜びに繋がっている。4月からタブレットが導入され、記録業務の効率化や情報の共有にも役に立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「まもりーぶ」を利用している利用者様が一名おり、月一回の支援の際には本人の様子などお伝えし、信頼関係を築くよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際は、ご家族様の理解を得られるよう十分な説明を行っている。不安や疑問点があれば、納得いただけるようその都度丁寧な対応を心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているほか、面会時や電話連絡の際に本人の様子をお伝えし、ご家族様の要望等も伺うようにしている。ご家族様の想いや要望は記録に残し、ケアプランに反映させている。	面会や通院時に要望を聞いている。聞いた内容は、職員間で情報を共有している。日光浴をさせたいという要望に、ベッド上で過ごす事が多い方も、リクライニング車椅子利用で庭に出て日光浴を可能にした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時代表者と連絡を取り合い、ホーム全体の状況が把握されるよう努めている。また、職員とも報告・連絡・相談を密に行い、連携を図るよう心がけている。	月3回の希望休や有給を聞き、シフト作成をしている。育児休暇からの復職時は、希望で時短勤務を取り入れている。職員の要望で電気ポットを購入した。資格取得支援として、経費を法人が負担し、勤務扱いにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、妊娠中や育児中の職員への配慮や家庭の都合など、様々な形の労働条件を受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個々の適性に合わせ、研修への参加を促すとともに、資格取得費用を全額補助している。また、施設内研修を行い、職員全員で知識や技術を共有している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為にリモートでの研修がほとんどであるが、参加した際には他事業所と情報交換している。	市やグループホーム協議会、気仙沼地域医療主催等の研修に参加している。法人の管理者同士で連絡を取り合い情報交換をしている。入居者だけでなく、職員自身のコロナ感染予防対策を話し合った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見や要望に耳を傾け、想いを受け入れるよう努めている。また、会話や行動を観察し、安心して暮らしていけるような支援を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見や要望等を聞き、不安や疑問点など解消できるよう十分な説明を行い、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態を見極め、ご家族様の意向も確認しながら、必要なサービスの提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりに合わせた役割を持っていただいている。職員は常に利用者様に寄り添う姿勢を大切にしながら支援を行い、お互いの信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、必要時には電話を入れ、ホームとのつながりを感じていただけるよう努めている。会話の橋渡しを行うこともあり、安心して穏やかな時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医を継続受診したり、ご家族様と行きつけの床屋へ行ったりなど、つながりを大切にしている。コロナ禍の為に難しくなっているが、馴染みの場所へドライブへ行ったりしている。	入居者の希望で家族へ電話をしたり、コロナ対策をした面会室を作り、家族との関係継続が途切れないように支援している。訪問理美容師と馴染みの関係がある。桜並木の散歩コースも馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席は、利用者様の性格や相性を考慮し、関りが持てるよう配慮している。また、利用者様同士でトラブルにならないよう、職員が仲介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者様のご家族様が、古新聞やフルーツなどを届けてくださったり、街中でお会いした際も声をかけさせていただいている。お互いの近況を報告したり情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との生活の中での会話や表情などから想いや希望をくみ取れるよう努めている。また、ご家族様から情報や協力をいただき、本人本位に検討するよう努めている。	それぞれの入居者が出来る事を見極め、新聞紙のゴミ箱作りや洗濯物畳み等をして貰う事で、達成感を感じて貰っている。食べムラのある方に、家族の協力を得て好きな甘酒やおかずを提供して貰った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や趣味・趣向などの情報を収集し、職員間で共有することで、入居後も普段通りの暮らしを継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や排泄状況を記録に残している。月一回の全体ミーティングの際にその情報を再確認し共有することで、利用者様の最新の状況把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	小ミーティング・全体ミーティング・モニタリング等を含め、職員全体で話し合い、プランに反映させるよう努めている。また、利用者様・ご家族様にも意向を伺い、希望に添えるよう定期的な見直しを行っている。	職員全体で入居者の状態変化を共有し、ミーティングで出た意見を半年毎のプラン作成に活かしている。皮膚の赤みを見つけ、エアーマットに切り替えた。下剤の調整や浮腫対策を医師に相談し対策を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録や排泄記録、業務日誌等に記入し、職員間で情報を共有している。また、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態やご家族様の都合などを考慮し、ご家族様対応の受診を職員が対応したり、必要に応じてご家族様と一緒に受診したりしている。その時々ニーズに合わせ、柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まもりーぶの利用や、避難訓練の際にはご近所の方々との連携など、安全で心豊かな生活が送れるよう支援に努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診し、適切な医療を受けられるよう医師との連携に努めている。また、ご家族様からの要望があり、利用者様とかかわりのある歯科医院へ連絡し、訪問歯科の受診を行っている。	全員が家族付き添いで、かかりつけ医を受診している。受診時は状態一覧や伝えて欲しい事を書面にして家族に渡している。家族から受診結果を聞き、タブレットに入力し、職員間で情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と異なる様子が見られた際は、かかりつけ医へ相談の電話を入れたり、緊急時には救急対応の医療機関へ連絡を入れている。必要に応じて、速やかな受診対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、ご家族様や主治医、医療連携室などとの情報交換を密に行い、退院時の調整に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成してご家族様へ説明をするとともに、同意を得ている。看取りの経験はないが、できるだけ早い時期に、ご本人様・ご家族様の意向を把握するよう努めている。また、かかりつけ医と相談し、必要なケア・対応ができるよう努めている。	入居時に、看取りの指針を説明し同意書を貰っている。指針には、体制や職種毎の役割、実施内容等が分かりやすく定義されている。重度化した時に、家族と再度話し合いの機会を持っている。急変時は病院搬送の選択が多く、看取りの経験は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備え、救急マニュアルを作成し、勉強会を開催したり全職員が緊急時に対応できるよう備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のBCPを作成、勉強会で情報を共有している。避難訓練の際は近隣の方へ参加を依頼し、ホームへの理解を深めていただくきっかけにもしている。また、避難経路をドライブの際確認したりし有事に備えている。	消防署員や地域住民も参加して夜間想定訓練を実施した。声かけ誘導で職員の後ろを付けてくる方がいたので、玄関まで誘導した方が良いとの意見が出た。避難の目印は、扉の「入・空」の札を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日ごろから、利用者様の言葉を傾聴する姿勢を大切にし、一人ひとりに合ったケアの方法を考え、実践するよう努めている。利用者様を否定するような言葉を使わないよう努めている。	言葉遣いは、馴れ馴れしくならない程度で親しみを感じるように心がけている。失禁時は小さな声でトイレに誘導し、扉を締めて対応している。入浴時、プライバシーに配慮して脱衣所からの見守りに留める事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が遠慮なくお話いただけるよう、雰囲気や場所作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を確認したうえで予定に組み入れ、可能な限り利用者様の希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った装いができるように支援している。また、定期的に訪問理容を招いて対応している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなど一緒に行い、残存機能を活かす取り組みを行っている。イベント時には季節のものを、お誕生日には本人の好きなものや食べたいものを提供している。	調理員が入居者の意見を聞き、献立を立て調理している。手作りの家庭的な味付けが好評を得ている。ホットケーキ作りやテーブル拭き等を一緒に行っている。外食の代わりに宅配寿司を利用する事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎の摂取量、水分量を記録している。摂取量が少ない場合は、ご家族様とも相談し補食を提供している。また、咀嚼や嚥下能力に合わせ、食形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。利用者様の状態に合わせ、口腔ケアの見守り、支援を行っている。夕食後は義歯をお預かりし、洗浄・殺菌を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、各利用者様に合わせたタイミングでトイレ誘導や声掛けを行っている。立位が難しい利用者様でも、負担にならない程度に、できる限りトイレでの排泄を促している。	早めの声がけ誘導で失敗が減り、布パンツに改善された方がいる。おむつ使用の方も含め、全員にトイレでの排泄支援を実施している。立位が難しい方には、夜間以外は2人介助でトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を処方されている利用者様もいるが、薬だけに頼らず乳製品を提供したり、体操の時間を設け身体を動かし、スムーズな排便を促すよう努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週二、三回の希望する時間帯に入浴支援している。体調や気分など見ながら声掛けを工夫し、入浴嫌いの利用者様には無理強いせず支援している。	入浴回数は週2～3回で、同性介助や湯温、時間の希望に応じている。入浴剤やゆず湯が良い香りと喜ばれている。拒む方には、時間を空けて再度声がけをするが、清拭や足湯で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態や生活リズムを把握し、室温や照明を調整したり、安心できる環境作りに努めている。眠れないで離床された利用者様の話を傾聴したり、寄り添うことで安心していただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師や薬剤師からの説明や注意点を記録に残し、全職員が内容を確認している。また、毎日の小ミーティングで変更内容等伝え、利用者様の状態変化に気づけるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意なことなどを把握し、生活の中で役割を持っていたりできるように努めている。また、可能な限りドライブや散歩など気分転換ができるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様が受診対応の際、一時帰宅や外食へ連れて行ってくださる他、市外のご実家に帰省されたりしている。また、ドライブへ行ったり散歩や園庭へ出て外の空気を感じられるよう支援している。	コロナ禍で外出回数は減っているが、大島までドライブした。近所の散歩で気分転換出来るように努めている。プランターで花や野菜を育て、敷地内の桜を見る等で外に出る機会を増やしている。天気の良い日はウッドデッキで日光浴している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。利用者様から内容の開示の希望があった際にはお見せしている。嗜好品については職員が購入してきたり、同行し過度に購入しないよう注意を払うなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様などへの電話の希望があった際や、利用者様宛の電話があった際は、その都度対応している。また、理解が難しい利用者様には、ご家族様からの手紙を読み上げ、居室に飾っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの清掃・換気を毎日行い、清潔保持に努めている。また、ホームの中で過ごしていても季節を感じていただけるよう、四季折々の装飾を施している。	ホールは1日4回換気し、気候の良い日は窓を開けて空気の流れを作っている。軽体操や歌を歌ったり、ソファで寛ぎ、お喋りして過ごしている。季節を感じる餅つきウサギや月のちぎり絵の作品が壁に飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや本棚を設置しており、一人になれる場所を設けている。気の合う利用者様同士、お互いの居室を行き来し楽しいひと時を過ごされることもある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族様に馴染みのものをお持ちいただくようお願いし、タンスやTVの設置、家族写真を飾るなど居心地よく過ごせる環境を整えるよう努めている。	クローゼットやベッド、洗面台、カーテンが備え付けてある。馴染みの家具やテレビを持ち込んでいる。家族差し入れの週刊誌や猫の写真集を楽しみ、職員が掃除する時に、モップ掛け等を一緒に行う方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態を把握し、居室・トイレ・浴室がわかるように表示している。廊下・トイレ・浴室に手すりや滑り止めマットを設置し、安全で自立した生活が送れるよう努めている。		